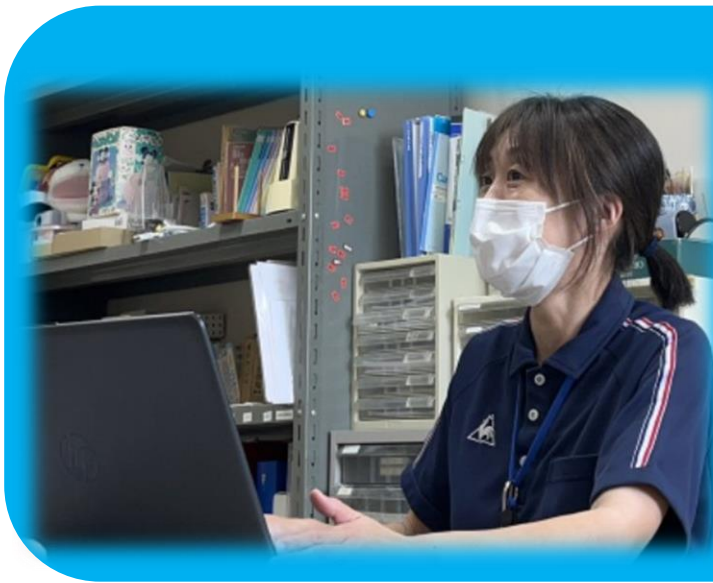


リレーメッセージ

滋賀県STのよもやま話

04

近江温泉病院
久貝 千里さん



STのつながりを大切に
今までを振り返り感じること



初めまして。私は近江温泉病院に勤務し早〇年、回復期、医療療養、介護医療院、訪問、外来と様々な部署を経験させて頂き、現在7名のSTの仲間と共に働いています。今回リレーのバトンを受け取り「何かメッセージを」と、今までを振り返ってみました。

入職当時は、滋賀県内のSTが少なかったこともあり、近隣STの方々と交流は貴重な時間でした。先輩STが交流機会を作ってくれ、お菓子を持ち寄り勉強会の開催や様々な研修会へ一緒に足を運び、刺激をもらいに行っていました。また普段の仕事の話をしていると、「いつも近江のSTは帰りが遅いですね」と言われる程、毎日帰りが遅くなってしまい、今振り返ると何をしていたのか取っつきにくい限りですが…。当時はわからないことだらけで、患者さんについて「あーでもないこーでもない」とスタッフみんな話して、遅くまで残っていたように思います。今となれば良い思い出です。

さて、ここでは、訪問時代のエピソードも紹介します。失語症の方のお家で、ご家族が作ってくれずしを勧めて下さったことがありました。耐えずと言えば滋賀の高級な名物、でも匂いが独特…。時代もあり、ここは言葉を引き出すき、かけになれれば、「ありがたうございます！」と一緒に頂きました。これがまた美味しく患者さんも笑顔、私も笑顔で「材料は何ですか？どのようで作るのですか？」など言葉を引き出すき、かけを頂き、訪問ならではの思い出です。もう一つ、初めて伺った訪問先での出来事です。同じ苗字の方が多い地域で「初めまして…」と挨拶し、顔を合わせると「事前情報と症状が違うな？」と。なんと！同じ苗字の違うお宅に訪問してしまうという大失態。訪問時代はヒヤヒヤエピソードが多かったですが、ST

領域のみならず広い視野を持た知識が必要で、柔軟な動きが求められることを痛感し、多くの学びがありました。

現在では、近江温泉病院のSTとしてどうあるべきか、臨床だけでなく教育・指導といった部分でも。と同時に、臨床においては長期療養の方へ楽しみとしての食の支援がどうあるべきか常に悩んでおり、この方の望んでいることは何なのか？私たちの向き合い方であっているのか、本人の思い、家族の思いに耳を傾ける人らしい生活につながるにはどうすべきか？悩みはつきません。

時間の流木とともにライフスタイルも変わり、最新の新しい知識に全くなついていけず（それはいけません）、年齢もあってか頭にとどまりにくく自分自身の衰えを感じる日々ですが、また昔のように「あーでもないこーでもない」と、違う悩みでぞくぞくお話をしたいな」と、改めてこの機会を頂き感じております。また入職当時からSTのつながりがあるからこそ、何かあった時は声をかけさせて頂いており「これからそのつながりを大切にしていきたいな」と思います。考え出すと奥が深く、なかなか言葉では表しにくいですが、やはりSTの仕事は楽しく日々向き合えることに感謝し、「また明日からも頑張ろう」と改めて力が湧いてきました。新人の皆さんも数少ないSTの仲間を大切に、いろんな話ができる輪を広げていきましょう。

この度は貴重な機会を頂き、ありがとうございます。